

環境学習をはじめよう

(1) 環境って何？

「環境とは何ですか？」とされたとき、どのように答えますか。

私たちが生きていく上では、大なり小なり、直接的であれ、間接的であれ、周囲のものに何らかの影響を与えています。そこで、

私たちから見た「環境」とは、「私たち生物（人間も生物です）のまわりの世界のこと。 - 私たちが生きていく上で関わりを持つもの」

と言えるのではないでしょうか。

水や大気などの生活に関わりの深い環境もあれば、森や生き物などの自然環境、道路や建物のような人工的な環境、史跡や文化財などのもつ文化的な環境など、その範囲は広範囲で複雑です。

「あなたにとって環境とは何ですか？」辞書を引いて「私の周りにあるもの」と答えるかもしれません。しかし、「私の周りにあるもの」が私にとっての環境であるためには、「私」と「周りのもの」の間に何らかの関わりが必要です。そのものと、あなたとに関わりが生じた時、初めて、そのものが、あなたにとっての「環境」となるのです。

何らかの関わりについて、次のような身近な例があります。

- ・例の1：あなたの家の生活排水が川に直接流れていったとすれば、あなたとその川は密接な関係をもっています。
- ・例の2：あなたの捨てた不燃ごみが海の埋立地に埋められているとすれば、その海とも関係があります。海や川に生息する生き物と関係しているともいえます。
- ・例の3：あなたが自然の渓谷でキャンプをし、食事を作るために木や落ち葉を集めて火を起こし、食器を川で洗ったりすれば、その渓谷や周りの森に何らかの影響を与えていることになります。

あなたにとっての環境を考えてみましょう。



(2) 環境と私たちの関わり

私たち人間が生きていく上で最も関わりの深いものといえば、何でしょう。

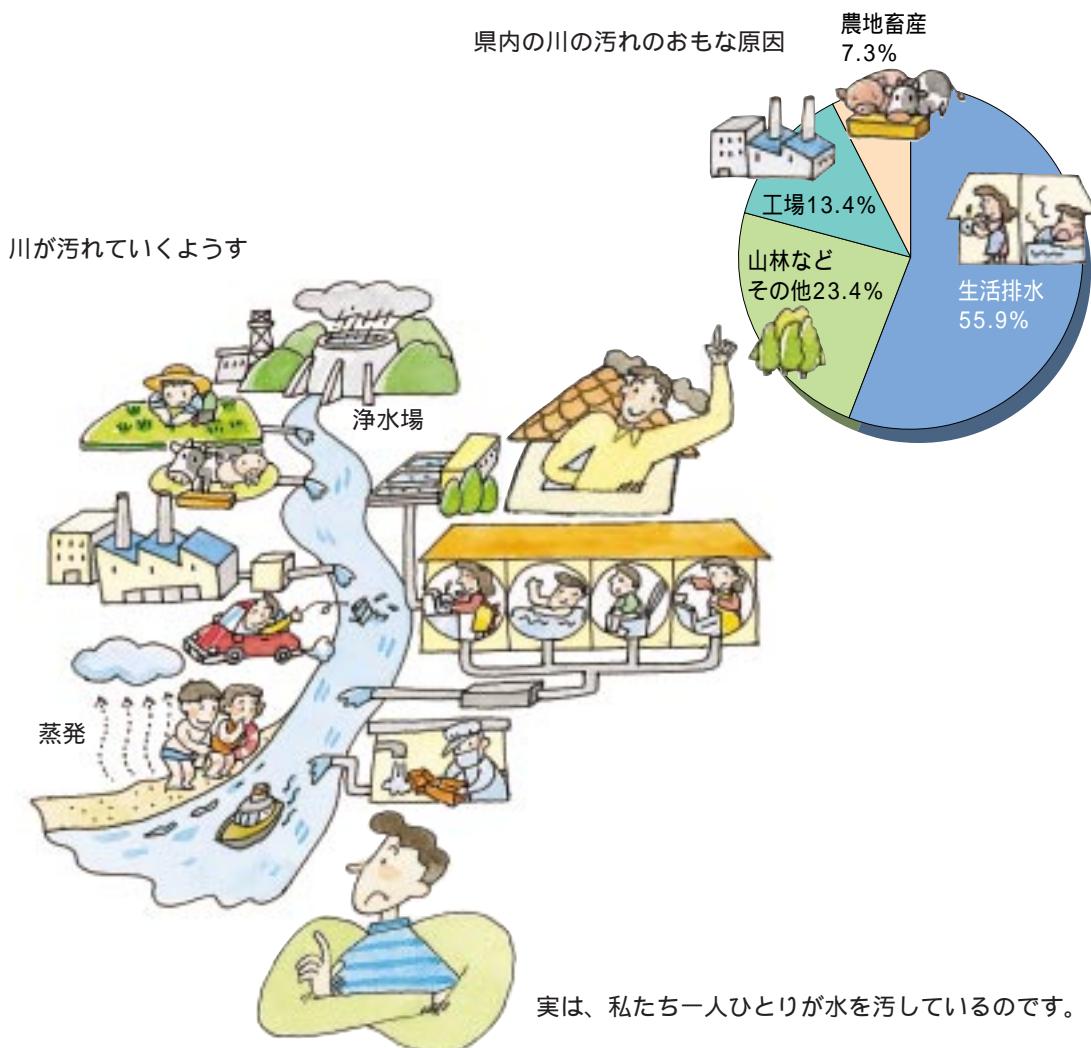
次の例について考えてみましょう。

人間は、昔から水と密接なかかわりを持って、生活し、水産業、農林業、工業等の発展をとげてきました。しかし、その一方で水質汚濁が進み、昭和40年代をピークに改善の傾向にあるものの、まだ、生活排水などの問題を残しています。

水は、私たちにとって、かけがいのない資源です。この水がどのように利用され、その水がどのように川や海へ影響を与えているか考えてみましょう。

- ・毎日飲む水は、どのようにして手に入りますか。
- ・水をどのようにして私たちは利用していますか。
- ・汚れた水は、どのように処理され、どこに流れていますか。
- ・山口県の河川の水質汚濁の原因の内で、家庭から出る生活排水汚れの割合はどの位でしょうか。
(参考) 山口県の水質汚濁の原因の約5割は、家庭から出る活排水です。

(平成8年度の県内主要河川のBODの発生源別割合：生活系 14.3～88.1%)



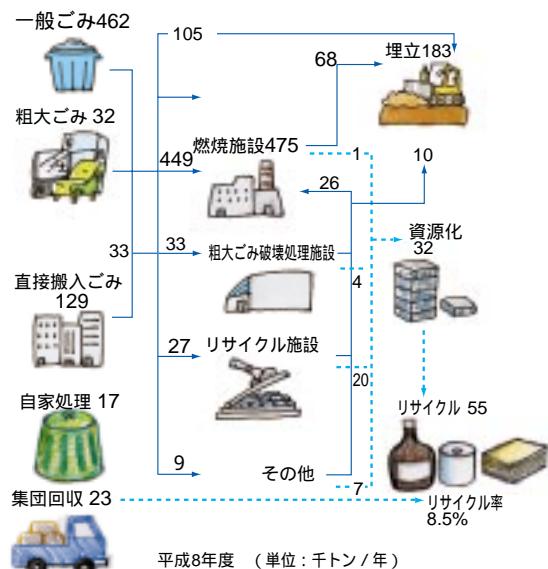
産業活動や私たちの日常生活に伴って様々な廃棄物が、大量に排出されており、これらの廃棄物の適正な処理が困難となりつつあります。

快適で住みよい社会をつくり、かけがえのない地球の環境を守るためにには、廃棄物を資源として有効利用するなどの廃棄物の排出を抑制するためのリサイクル社会を構築する必要があります。

廃棄物の減量、再生利用などについて考えてみましょう。

- 私たちが生活していく上で出るごみは、どんなものですか。
- ごみはどのようにして処理されていますか。
- その費用はどうでしょうか。
- ごみは、私たち一人1日あたりどのくらい出しているでしょう。

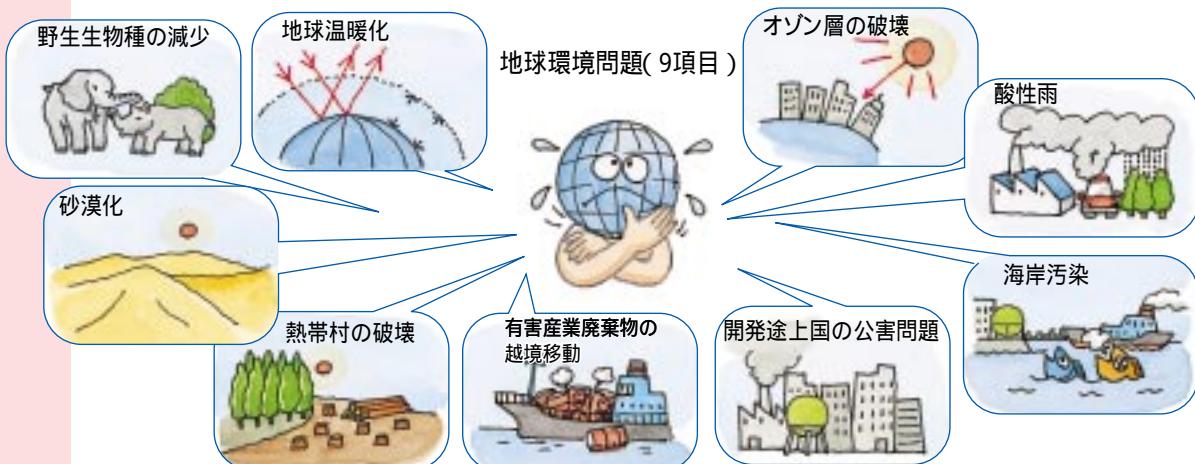
(参考)ごみを全く出さない生活をするのは難しいと思いますが、家庭から出るごみで一人1日当たり約755g、事業所等の紙ごみ等を含めると約11,167gもあります。(平成8年度山口県下のごみ排出量:全国平均よりはやや少ないものの、中国四国地域で一番多い)



ごみを出す暮らしや事業活動について考え直す必要があるのではないでしょうか。

地球環境問題も私たちの暮らしと無関係ではありません。どのような関係があるか考えてみましょう。

- 地球環境問題とは、どのようなことがありますか。
- また、その問題と私たちの生活との関係を考えてみましょう。



このように環境問題は、私たち人間だけにとって都合の良い、便利で快適な生活を追い求めてきた結果と言えます。今の自分の生活のあり方や価値観を見直し、水、空気、自然そして地球など、周りの環境に対して、仲の良い友人とつき合うように思いやりを持って生活することが求められています。

(3) なぜ環境学習？

「環境学習に求められているもの」は、何でしょうか。

環境学習とは何か？のような抽象的なことや環境についての知識を求めることがよりも、問題解決の一案として、環境学習を活用することが求められています。

環境学習は、学者の研究対象としての学問ではありません。実践的に進められてこそ生きる、いわば現場の道具のようなものです。知識を重視するより、むしろ「なぜ？」の気持ちでものを見て、「実践的に」環境学習を活用することが求められています。

私たちが、自分の生活の仕方や価値観を変えるのはなかなかできることではありません。次々と生活に便利で役に立つ使い捨て商品が店頭に並べられ、テレビのコマーシャルで紹介されれば、ついつい買ってしまう。また、台所でそのまま油を流さず古布などで拭いて後始末をした方がいいのはわかっているけど面倒という意識がはたらく。自動販売機で、缶ジュースを買って、そのまま道ばたに捨ててしまう。悪いとわかっているけど、「自分一人くらいは構わないだろう」「誰かが何とかしてくれるだろう」とつい思ってしまいませんか。

しかし、その「分かっているけれど」というところが問題なのです。本当に分かっているのでしょうか。

この場合の「分かる」「理解する」というのは、知識として分かっているだけで、その知識が自分のものとして身についていないから、実際の生活の中で行動として結びつかないのでしょうか。言い換えれば、油を台所から流すことが自分の問題として根付いていないということです。

それでは、自分の問題としてとらえる、自分に関わる問題として考えていくためにはどうすればよいのでしょうか。そのために「環境学習」があります。

「環境学習」とは何でしょうか。

環境学習は、まず、自己と環境との関わりに気づくところから始まります。

自分とは関係のないと思っていたもの（環境）が、実は、大きく関係していることを自ら発見することから始まります。もちろん、それが自己とどのような関わりがあるかについて学ぶことが必要です。

環境学習では、「気付き、学んだことを実践行動へと結びつけていく」ことが最も重要です。

また、環境学習では、「どういうふうに気づいたのか。何を感じ、何を考えたのか」という、学んでいく課程にも着目します。つまり、学ぶ人の感じ方や考え方を自己表現させることによって、他の人の感じ方、考え方の違いを認識し、自らの価値観をより環境へと配慮したものへと変えていくことが環境学習には大切なことです。

とりわけ、子ども達の環境学習を進めるうえでは、豊かな感性を育てるために、「体験型の環境学習」が効果的です。環境への気付きの第一歩として、自然や身近なまちとのふれあい、その体験に基づき感性を磨くことで、周りの環境への理解と認識を深めることができます。

”*Think Globally, Act Locally*”
「地球規模で考え、足下から行動を」

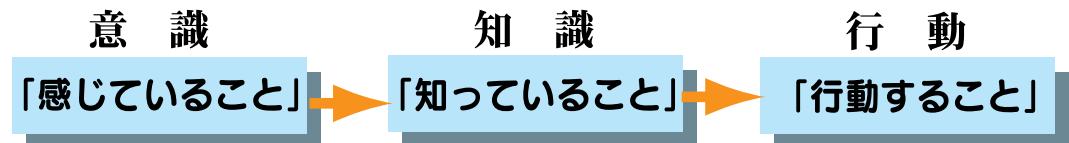
[参考]

「環境学習」とは何か。

環境学習とは、環境の価値や自然の仕組みの認識、環境モラルのかん養、豊かな感性や自然を慈しむ心の育成、人間の環境に及ぼす影響の認識等をさらに進め、日常生活や社会活動において、具体的に実践し、循環・共生型社会の実現に寄与するためのものです。

(「山口県環境学習基本方針」)

[環境学習の概念]



環境学習の目標とは何か。

環境に关心を持ち、環境に対する人間の責任と役割を理解し、環境保全・創造活動に参加する態度及び環境問題解決に資する能力を養うとともに、日常生活や社会活動において、環境への負荷の少ないライフスタイルを実践し、循環・共生型社会の実現に向けて行動する人を育成する。

(「山口県環境学習基本方針」)

環境とのふれあいを通じて、環境の価値を認識し、環境を守り育む心、豊かな感性を形成する。日常生活から事業活動まで、人間の諸活動がいかに深く環境との関わりの中で営まれているかを体験に基づき具体的な形で認識する。環境への負荷を少なくするために何をすべきかを考え、日常生活において自主的、主体的に実践する。循環・共生型社会を実現し、恵み豊かな環境を将来に引き継いでいくために地域での活動に参加する等積極的に行動する。

注) 循環・共生型社会とは、環境への負荷の少ないライフスタイルや経済社会システムのととのった社会。

(4) 指導者の役割って？

環境学習指導者の役割は何でしょうか

環境学習は決められた答えを見つけ出すためのものではなく、参加者一人ひとりが得る答えは、参加者自身の心の中にあります。指導者の役割は、参加者が自分でその答えを見つけ出し、自分が何かをしなければならないかを考え、自ら行動していくよう応援してあげることです。

つまり、指導者は、様々な「プログラム」の進行を通じて、直接または間接的に参加者とかかわり、学習の過程を助ける役割を担います。

環境学習プログラムにおいて指導者は「どのようにかかわり」「どのように応援」すればよいのでしょうか。

プログラムの目的や内容、場の状況などにより異なりますが、体験学習では参加者の持っている潜在的な力を引き出し、その人が学んだことを本当の意味での理解や行動に結びつけられるように助ける役割を果たすことが求められます。

体験学習を中心とした環境学習の場合、指導者の役割としては、「参加的な役割」および「委任的な役割」が中心になることが望ましいと考えられています。（「指導者の役割」は、次頁の[参考]参照）

具体的な役割としては、プログラムの展開の中でプログラムの目的や内容、その場の状況などに応じて、参加者に対する助言・指導という形で行われます。

指導者は、どのような場合、助言・指導をするのでしょうか。

（指導者の具体的な役割）

- ・活動が円滑に進行していないとき
 - ・参加者同志のコミュニケーションが進んでいないとき
 - ・参加者が主体的・自発的に参加していないとき
 - ・実施のルールが守られていないとき
 - ・参加者のグループでの達成が難しいと思われるとき
 - ・予測できない出来事が起きたとき
 - ・参加者から質問を受けたとき
- ただし、参加者の側に立って主体的な姿勢や学びのプロセスを妨げないよう配慮してください。

指導者は、どのようなことに気を付けなければなりませんか。

- ・参加者とのコミュニケーションを深める。
- ・参加者全員が主体的・自発的にその場に参加できるよう心がける。
- ・参加者の感受性を生かすように心がけ、環境について何らかの気付きや学びを持ってもらう。
- ・参加者の一人ひとりが主役であり、「プログラム」の目標やねらいを達成したいあまり、気付きを押しつけたりしない。
(学習プロセスに沿って自然に進行している場合には「何もしない」という指導の形態もあります。)
- ・指導者は、技術的な面だけでなく、自分自身に対する気付きの心も必要です。
- ・新たな視点で取り組むために他の観察会やワークショップに参加することも一つの方法です。

指導者が、一人ですべての役割を担うことは、なかなか容易ではありません。一人で何でもやろうと思わず、時と場所によって必要な役割を使い分けたり、それぞれの役割を担うことのできるスタッフを活用しましょう。

また、指導者自身が、その役割の責任感にとらわれすぎて緊張していたのでは、参加する学習者の心を解きほぐすことはできません。要は、自らがいろいろな行事やイベントにスタッフとして参加したり、実践でいろいろなハプニングの経験を積み、自己教育の機会を多く作り、指導者自身の資質を磨くことが大切です。

[参 考]

環境学習指導者の役割

指導者の役割には、次のようなものがありますが、それぞれ長所と短所があります。

誘導的な役割：やや意図的、作為的で、指導者の意図を直接的に反映でき、その場では短期的に見て効果的ではあるが、参加者の主体性や考えは無視される傾向にあり、長期的には学習効果や発展性は小さい場合が多い。

参加的な役割：学習の目的や内容、その場の状況などに応じて参加者の主体性や考えに配慮しつつ、指導者が積極的に関与していく。その場で直ちに効果は現れない場合もあるが、参加者としての意識は高く、自発的な意欲の向上は十分に期待できる。

委任的な役割：指導者は参加者の求めに応じて指導・助言するのみで積極的には関与しない。このため学習者の主体性は大いに尊重され、学習効果は高まる反面、展開がうまく進まなかつたり、指導者として無力感のようなものを感じる場合もある。

放任的な役割：その場にいるだけの役割。

こうした役割はプログラムの展開の中で参加者に対する助言・指導という形で行われ、どの役割が望ましいかについてはプログラムの目的や内容、その場の状況などの応じて最も効果的な役割をうまく使い分けていくことが重要です。